

---

# 【悲しい宇宙人】

ヒーヨー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【悲しい宇宙人】

【NZコード】

N9479T

【作者名】  
とーよー

【あらすじ】

悲しい宇宙人と人間の話

21世紀が…。

終わりかけていた時代。

そんな…。

ある日の事。

空には1台のUFOが飛んでいた。

皆がソレゾレに驚き、指を差し、テンションが上がる者や、写メを撮る者や、友人に電話をする者こそいたが、誰一人として恐がる者などはいなかつた…。

それは…

このUFOの形が人間の共通意識による、ある物質の形と非常によく似ていたからだつた。

ヘビがトグロを巻き、テッペンにいくにつれ、細長く最後は上に向かってニヨロツと、1本出ているソノ形は誰が見たつて、ソレにしか見えず、ついに1人の子供が指を差して、こう言つた。

「大きいウンコだ」

それを聞いた周りの何人かが笑つた…。

ウンコ型のUFOは宙を浮くばかりで一向に着陸しようとはしなか

つた。

政府が接触しようとした代表がマイクで喋った。

「ええー。どーも。この度は、ワタクシが地球の代表としてあなた方とお話をすることになりました。早速ですが、あなた方はなんの為に地球に現れたのでしょうか？」

……その問い合わせに対する返事は無かった。

銀色のウンコは…  
いつまでも…  
ヒラヒラと…  
宙を舞っていた。

「ええー。……質問が急すぎましたかな？あはは。いやいや我々地球人は争いが嫌いです。あなた方がどの様な経緯で来られたのかは分かりませんが、友好的な関係を築ければ幸いだと思っております」

ウンコ型といった所で、ソレは確かにUFOであり、未確認飛行物体である。

科学力や戦闘能力は地球文明を越えるものに違いない。いきなり、レーザービームや訳も分からぬ攻撃で地球を破壊されたらたまつともんじやない。と、政府側もその事を十分承知しており、代表も気を使いながら話をしていた。

…しかし…いつまでたっても返事はなく…皆が諦め掛けていた…まさに、その時…。

『はじめまして。地球のみなさま』

…その声は…  
突然、聞こえた。

『ワレワレは第7宇宙からやつて來た。ゾライダスゴ人です』

そして、その声は地球上にいる全人類の脳ミソに直接入り込んでき  
た。

『ハハーン、コレがテレパシーというヤツだな?……と、思われた  
方は正解です。我等ゾライダスゴ人はテレパシーが使えます。つい  
でにテレポーテーションも使えます。挨拶代わりにお見せしましょ  
う』

そういうとウンコ型のUFFOはビュンツーと一瞬でドーギヨーダワ  
ーの前から消え、次の瞬間ドーギヨーズガイズウェイーキングの前に  
現れ、そして、また、ビュンツーとドーギヨーダワーの前に戻つて  
きた。

そして

ソレラの様子は直接目で見なくとも、全人類の脳内に鮮明な映像と  
してハツキリと映つっていた。

『どうですか？ワレワレ、ゾライダスゴ人のレベルの高さは。ケツ  
コーヤバめではございませんでしようか？』

その頃、政府から選ばれた地球の代表はスピーカー付きマイクで、  
ずっと何か喋っていたが、ダレも、何も、聞いてはいなかつた。

『なぜ我等ゾライダスゴ人が地球にやつて來たか？まずは、ソレに  
付いてお話したいと思います

……。

まあ……まず、言いたいのは、今見て頂いた様に、我等は全宇宙の中  
でもトップクラスに発達し、レベルが上がりまくつた存在です。そ  
れもそのはず、まず、あなた方とは知能が違います。

私達の能力を、あなた方の数値基準語に変換いたしますとHQ45  
0が平均です。

300だとバカ扱いをされ、200だと完全なるバカ。  
ソレが我等ゾライダスゴ星人なのです。

それに比べあなた方の平均知能は100いくつの様で……。

200もいけば大天才！……と、まつたく話になりません！

そして、更に知能が低いという事により、カンタンに解決出来るは  
ずの、原発問題も環境問題も食物問題も、なにもかも！そして！な  
に一つ！解決出来ないでいる……。

……と……こうより……！

今だに！ わざわざ！ 口に物を運び、アゴを動かし！ 飲み込む！ … 等と、いつた笑つてしまいたくなる様な事をしている。

ははは。

本当に笑つてしましましたよ。

この宇宙船に乗つてこるワレワレはね。

そして

そんなレベルの低い文明ブンザイであるにも関わらず、ワレワレの飛行船を見て笑いましたね？ バカにしましたよね！ ？

あはははははは。

… ですから、逆にソッチが笑つてしまりますつてー。

今だにあんなに臭くて、汚くて、そして、あんなにも意味不明なものを体内から出しているとは、どう考へても、ソッチの方が笑い者では無いですかー。

しかし…

どうしたものでしょー？

そんなレベルの低いあなた方にバカにされたワレワレはビリするべきだと思いますか？

元々地球に訪れた目的。やつて来た理由である……【ゾライダスゴ人による！ 宇宙全体！ 知識と文化の発展強化キャンペーン計画】… を、実行させるべきでしょーか？

ヰヤハハハハ！ ！ ！ ！

！」！「！おし！」

絵文ヤタガラシ……と、ソレが我等の見解であります。

地球人類は、我等ソーライタス二人をバカにする事によつて、大幅に成長出来るチャンスを自らの手で失つてしまつたのです！――！

発展出来ない！  
そのままで！

ギヤハハハハハ！！！！

……おつと、それだけでは「どうぞ」こまません。

我等ソライタス一人をバカにしたんですよ？

ココで1つ伝えるのを忘れていました。

いま、この言葉自体がすでに示す様に：我等ゾライダスゴ人はテレパシーが使えます と、いうのはもう知っていますね。

そして、更にもう一つ。

大きく分ければ同じ能力ではあるのですが生命種関係なく相手方の  
考えている事が分かるんですよ。

「大きいウンコだ」

ふざけんな！！！！

… そんな事を思いオマエ等二<sup>ニ</sup>ンゲンは笑つた！

笑うという行為！

ソレハ！

バカにするといつ感情を抱き！そのバカにするといつ感情の中には  
！見下すという感情も含まれており！見下すという感情の中には経  
緯を扱わぬといつ感情も含まれているみたいだなあああああああ  
あ！！！！

さつきも言つたが！

また言つぞ！！！

そんなもんを自分自信の体から出してる方がよっぽど変でーそんな  
変な文明にバカにされた我等はどうするーどーするー.  
ギヤハハハハ！！！！

あのねー！

あのねー！

いちおはねー！

新しい星にねー！

訪れる際には、ちやーんと、その星の文化レベルや戦闘レベルは調  
べてあるんできーす。

コレ等も多いに笑わせてもらひましたよ。

大砲ねー！

ロケットねー！

せいぜい核ミサイルが一番強いとはねー.....。

ワッハツハツハツハツハツ！-----！

なんなのソレハ？

ギヤハハハ！-----！

まったくもつて！

なんにも！

かんにも！

なりませーーーん！！

核ミサイル等！

100発食らつてしまつても……！

ビクとも！

なんともいたしませ——ん——ん——』

人類達の脳内に、その雄叫びの様なテレパシーが鳴り響いた。

人類達は軽い恐怖を覚えた。

『ソレデハ、ソロソロ、はじめます……』

そういうと、ウン「型」F0は一瞬にして、世界中の至る所にテレポーテーションで移動し、大きく、真っ黒な玉を空中に置き、最後はドーギヨーダワーの前に戻ってきた。

『……ククク。それではお待たせしました！カウントダウンの始まりでーす！』

テレパシーが鳴り響き、人類達は何が始まるのか、そして、どうすれば良いのか全く分からぬでいた。

『「オオオ……』

『…ン…ン…』

突然始まったテレパシーでのカウントダウン。

『サン…！…！』

ソレと連動して更に膨らむ黒い玉。

『一イー…！…！』

その映像はもちろん人類の脳内に映像化され、映し出されている。

なにかは全く分からなかつたが、人類達はかつて無い恐怖に包まれていた。

『イイー…チ…！…！』

その瞬間…。

地球上の至る所に置かれた黒い玉から凄まじいオレンジ色の光が放たれ、人類達はとっさに頭を抱え、その場にしゃがみ込んだ。

『ゼロ――――』

そのテレパシー音と共に地球は巨大な光りに包まれた。

そして……。

つぎに……。

人類達が……

目を開けた時……。

……そこは……

……樂園だった……。

『ははは』

空には雲一つ無く、太陽はピカピカと眩しいくらいに輝いている。

それでいて  
暑すぎず

寒すぎず

地球全体に丁度良い空気が流れ出していた。

その心地良い空気と共に見たことも無いチョウの様な綺麗な生物が  
大空を飛んでいる。

そして、大きく膨れ上がり破裂した黒い玉は、今は白く光り、沢山  
の食料や、見たことも無い衣類や、オモチャや、その他、地球では  
手に入らない高価な物が山ほどあり、それらが、どういう原理でそ  
うなっているかは分からないが、ゆっくり、ゆっくり、降りて來て  
おり、ボーッとそれ等眺める人類達の脳内にゅつたりとした声で  
ゴライダスゴ人からのテレパシーが伝わった。

『…ははは

『地球の皆様』

『驚かせちゃって、ゴメンなさいね~』

そのテレパシー音は、さっきまでのものとは、口調やトーンが違つ  
ている様に感じられ、優しさがあった。

『えへへへへ。ほんとにゴメンなさいね~。ドッキリみたいなもん  
でーす。チョッとイタズラしただけでーす』

人類は黙つて

そのテレパシー音に脳を向けている。

『まあ……正直な話……ムカついたのはムカつきましたケドね……』

と、小さな笑いを含ませたゾライダスゴ人のテレパシーが送られた。

『ウンコ型とバカにされた時は、確かに、ムカきましたが……まあ宇宙船なんて、所詮、作られたものなんで、別に怒る程の事でもありません。全然ヨシとしますよ。えへへへ。宇宙は広い！我々はソレを知っています！文化や歴史が違うからこそ！違った発展を遂げ！その中で！多少自分達の固定観念により、相手を笑ってしまった！逆に相手に笑われたりするでしょう！別に良いではないですか！誰にも悪気は無いんです！相手自信を傷付けない限り！コーエアの問題で片付けてしまえば良いのです！』

人類達は和み笑いに包まれた。

そして、しばらくすると白い光りに包まれた沢山の送り物が地上に届いた。

見た事もない食料や、衣類にみんなが驚いた。

「なんだコレは？食べても食べて減らないぞ？」

『ハハハハ。……それはウェスター・ブラウニーといつて我々の住む世界での食べ物です。

と、言つても我々は、すでに8000年前に口を使っての飲食攝取を終えているので必要ありません。イマ我々が全宇宙に向かって提供している物の一つです。

地球の方にも1人1「ずつ以上に余裕を持たせ提供致しております』

「コレはなんですか」

『それはヤウイールピクチャーといつてボタン1つで色や「デザイン」を自由に変える事が出来る衣類です。コレであなた方は一生洋服を買う必要はありません』

「コレは?」

『そればゲームです。ボタンを押してみて下さい…』

「…うわああ…！」

いきなり巨人が現れた。人間はビビってもう一度ボタンを押した。

巨人は消えた。

『ハハハハ。気が向いたらやってみて下さい』

みんながソレゾレ興味ある物を手に取り楽しげに、見たり、食べたり、遊んだり。

そして

人間達からゾライダスゴ人に向けて大量の「…ありがとうございます…」というテレパシーが送られ、それに対しゾライダスゴ人も『…どういたしまして…』を送り続けていた。

そして、しばらくしてからゾライダスゴ人から改めて人類にテレパシーが送られた。

『それでは…我々はソロソロ他の星へ行きます』

「待つてくれ！」

「礼をさせてくれ！」

「こんなに、素敵な贈り物をくれたゾライダスゴ人の方々にオモテナシの1つもせずに、返してしまえるはずがない！是非！是非！地球で休まれて、『下さ』いませ…」

世界中が心の底からそう思い、それ等はテレパシーによってゾライダスゴ人に沢山伝わった。

『ハハハ。いやいや。気持ちは有難いですが、今日中に、あと3つ程ほかの惑星にも立ち寄りたいので…』

「そんなこと言わずに！少しでいいから…」

「少しだけでも寄つて下さい…」

ゾライダスゴ人は宇宙船の中で話合つていた。

『どーする？』

『ハハハ。嬉しい事じゃないか』

『確かにそうだな。こんなに律儀に礼を言われちゃ、寄らない訳にもいかんようだし、少しだけ行くか』

『ハハハ。そうだな。気の良い地球人の歓迎とやらを受けたあと、次の星に行くとしよう』

銀色の宇宙船がゆっくりと地球に着陸した。

人類達は声や心で大きく歓声をあげた。

プシューと銀色の扉が開き、煙の中からゾライダスゴ人が姿を現した。

見た目は、ほとんど人間と変わらなかつた。

…しかし…

ただ1つ…。

違う所があつた…。

それは……両方のホッペタ部分が異常に膨らみ、2つの大きな円形になつてゐる事、と、頭の先がポクつと膨らみ、テッペン辺りがキノコの様な形をしてゐるソレは誰が見ても、ソレにしか見えず、ついに1人の子供が指を差して、こう言った。

「チンポ人間だ」

しかし、それを聞いた周りの大人は、もう誰も笑おうとは、しなかつた。

そして、心の中の執念を書き消すという作業に全神経を使注ぎ込んでいた。

無論その映像は全人類の脳内に映り込んでいたため、全人類がその作業に力を費やしたが、遂に心の中の爆笑はゾライダスゴ人に沢山伝わってしまった。

…そして…数分後…

果てしなく広い宇宙の中から、地球という小さな星が消え去つていった…。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9479t/>

---

【悲しい宇宙人】

2011年10月9日04時49分発行